

2021年5月2日～5月8日 各家庭でのディポーション用テキスト

## ■病気による訓練 (2/3)

しかしながら、病気が必ずしも私たちの不義の結果であるとはかぎらない。私たちは、ある人々がその罪のために病気になったから、病気の原因は罪だけであるという飛躍的な結論を、あまりにも早急に出してしまう。友人や批判者たちが、病気について誤った判断を下したために、どれだけの不正がなされ、どれだけの悲しみがもたらされたことであろう。人々は、病気が常に神の知られたみこころに対する不従順から起こると推測し、主張する。弟子たちは、生まれつき目の見えない人について、「先生。彼が盲目に生まれついたのは、だれが罪を犯したからですか。この人ですか。その両親ですか」と主に尋ねたが（ヨハネ 9:2）、彼らも私たちと同じような考え方をしていたのである。

このような病気の原因についての不公正な非キリスト者的な判断は、親と子に対してなされる場合、特に残酷である。たとえば、子供が肉体的にあるいは知的に何かの障害を持っていると、近所の人や友人たちは、顔を見合わせて目くばせし、頭を横に振り、陰でひそかに推測する。「あの子があんなふうなのは、何か理由があるからなのだ。きっと何か外聞をはばかるような家庭の秘密があるに違いない」と。

私はくり返して言いたい。そのようなひそかな批判は、不親切であるばかりか、残酷である。主イエスのみことばは、そのような批判をずっと以前に沈黙させるはずのものであった。しかし、現実にはそうでないようである。私たちはなおも、すべての病気は何かの罪によるものと信じている。しかし主は、明らかに、「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません」と言われた（9:3）。

私たちも主と同じように、病気の子を持つ人々に同情的でなければならない。このような苦痛を許容される神の限りない知恵とあわれみを計ることはできない。私たちは、途方にくれている両親をあわれみ、両親のために祈るべきである。すなわ

ち、彼らがこの悲しみは罪によってもたらされたものではないという確信によって強められ、彼らの悲しみが軽減されるように努めなければならない。

それにしても、病気になったために他人から心ない非キリスト者的な批判を受ける、この病気による訓練は、何と深刻なものであろう。そして、ある病気は「神のわざがこの人に現われるためです」(9:3)という主イエスのみことばを信ずるのは、何と幸いなことであろう。主はその目の見えない人をあわれみ、その両親に関してきびしい質問をするようなことはせず、いやして目が見えるようにされた。私たちがキリストのような態度をとることを学ぶとき、何という心のいやしがもたらされることであろう。

病気が私たち自身の罪や不注意によることもあるが、必ずしもそうであるとはかぎらない。それは「神のわざが現われるため」ばかりでなく、「神の栄光のため」(ヨハネ 11:4) できさえあるかもしれない。「神の栄光のため」—これは強いことばである。そして主は、ラザロとその病気について、明らかにそう言われたのである。何が原因でラザロがそのような病気になったかは、示されていない。そして私たちは、それが罪のゆえであると推測する必要はない。主はラザロを愛しておられた(5節)。主はご自身のすべての民を愛しておられる。主は愛する者たちを懲らしめ、ご自分の息子や娘たちをむち打つことさえされる(ヘブル 12:6)。しかし、そのむちは、私たちに対する神の最後通達ではない。なぜなら、「すべての懲らしめは、そのときは喜ばしいものではなく、かえって悲しく思われるものですが、後になると、これによって訓練された人々に平安な義の実を結ばせます」(11節)。詩篇記者は、「苦しみに会う前には、私はあやまちを犯しました。しかし今は、あなたのことばを守ります」と言うことができた(詩篇 119:67)。長い試練ののち、彼はまた、「私たちは、火の中を通り、水の中を通りました。しかし、あなたは豊かな所へ私たちを連れ出されました」と言うことができた(66:12)。